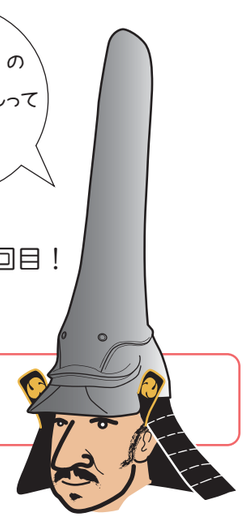
はにわ通信

No.199 平成23（2011）年10月号



11月３日に開催される「氏郷まつり」は、今年でちょうど50回目！
みなさんは氏郷さんのこと、どのくらい知っていますか？

Q１　氏郷の妻 冬姫のお父さんは誰？
A：織田　信長　　B：豊臣　秀吉　　C：徳川　家康

Aの織田信長が、妻冬姫のお父さんです。日野城（今の滋賀県蒲生郡日野町）で生まれた氏郷は、13歳のとき人質として岐阜の信長のもとへ送られました。氏郷を気に入った信長は、娘の冬姫と氏郷を結婚させて、日野城へ帰らせました。本能寺の変で信長が亡くなった後は、秀吉に仕えました。

Q２　松阪を何年間治めていたの？
A：６年間　　B：１８年間　　C：２９年間

答えはAです。日野からやってきた氏郷は、最初は松ヶ島城を居城としていました。すぐに新しい城をつくり始めた氏郷は、完成後、城下町を「松坂」と名づけ、松坂城に移ります。そして、城下町の整備を行ない、今の松阪の基礎をつくり上げますが、２年後に今度は会津（今の福島県会津若松市）を治めるよう秀吉の命を受け、松阪を離れます。

Q３　文武両道だった氏郷。誰のお弟子さんだったでしょう？
A：松尾　芭蕉（俳句）　　B：千　利休（茶道）　　C：狩野　永徳（絵画）

答えはBです。14歳のときに、大河内城攻めで初陣を飾った氏郷は、その後もいろいろな戦いで活躍をしますが、武将としてだけではなく、茶道などの文芸にも秀でていました。氏郷は、千利休の弟子の中でも特に優れた７人のうちの一人とされています。

氏郷さんのこと、どのくらい知っていましたか？
文化財センターのはにわ館では、10月９日から12月４日まで、特別展「氏郷の遺したもの」を開催し、戦国武将蒲生氏郷と松阪の城づくり・町づくりについて紹介しています。初陣で着たと伝えられる甲冑（かっちゅう）や、氏郷さんが書いたお茶の注文書も展示しています。本能寺の変のとき、氏郷はどうしたの？いくつで亡くなったの？もっともっと氏郷さんのことを知りたい方は、はにわ館に来てくださいね。　（担当）

【秋の日に・・・】

秋日（しゅうじつ）　　耿湋（こうい）

返照（へんしょう）　閭巷（りょこう）に入（い）る
憂（うれ）へ来（き）たりて　誰（たれ）とともにか語（かた）らん
古道（こどう）　人（ひと）の行（い）くこと少（まれ）に
秋風（しゅうふう）　禾黍（かしょ）を動かす

（夕日のてりかえしが村里の小道にまでさしこんでいる。
わきおこる心の不安やかなしみをいっしょに語りあう相手もいない。
さびれたいなかの道には人通りもほとんどなく、秋風がイネやキビをゆれうごかしている）

秋の夕暮れどき、夕日のてりかえしにまたふきぬける秋風に、古人たちは国や時代をこえてさまざまなもの思いに身をおきます。

いりひさす　きびのうらはを　ひるがへし（え）　かぜこそわたれ　ゆくひともなし　会津（あいづ）　八一（やいち）
この道や　行く人なしに　秋の暮　松尾　芭蕉
夕（ゆう）されば　門田（かどた）の稲葉（いなば）　おとづ（ず）れて　芦（あし）のまろ屋に　秋風ぞ吹く　源（みなもとの）　経信（つねのぶ）

鈴の森公園のちかくからは、この季節、夕日にひときわ映える堀坂山や観音岳のすがたが印象的です。夏のあいだたくさんの子どもたちでにぎわった噴水のまわりもしずまりかえり、夕暮れてひとけのなくなった公園の木々が風にゆれるさまは、古人ならずとも詩ごころをゆさぶられるものがあります。
お知らせしましたように、文化財センターでは特別展「氏郷の遺したもの」がはじまります。戦国武将にして和歌や茶道にもひいでた文化人であった、蒲生氏郷について考察いたしますのでご期待ください。

耿湋　　中唐（766～835）の詩人　　（所長）

文化財センター　はにわ館＆ギャラリー10月の催し物予定

10月の休館日は3日、17日、24日です。開館時間は9時～17時です（入館は16時30分まで）。

【はにわ館】　入館料100円（18歳以下無料。）

第1展示室　■常設展「宝塚古墳の謎」
第2展示室　■特別展「氏郷の遺したもの」 10/9（日）～12/4（日）
☆ミュージアム・トーク　10月10日（祝・月）13:30～14:30

バーコード読み取り（文化財センター情報）

【ギャラリー】　入場無料

第1・2・3ギャラリー　■第５２回松阪市美術展覧会
【第１部】絵画・彫刻・工芸　10/8（土）～10/16（日）　＊16日は15:00まで
【第２部】写真・書道　10/29（土）～11/6（日）　＊6日は15:00まで
★灯りコンサート～フルートアンサンブルのタベ～
10月15日（土）17:30～19:00（会場：はにわ館前広場）　＊入場無料・雨天決行

【発行】松阪市文化財センター　【電話】0598-26-7330　【サイト】http://www.city.matsusaka.mie.jp/